

## 令和2年南アルプス市議会第4回定例会（12月） 市長説明要旨（抜粋）

本定例会における議案の説明に先立ち、これからの市政運営の取り組みについて、所信の一端を申し上げます。

本議会は、第6期南アルプス市議会議員の皆さまにおかれましては、初の定例会であります。全ての市民が安全で、安心して暮らすことのできる南アルプス市を築くために、力を合わせ、今後の市政運営を推進してまいります。

新型コロナウイルス感染症は、社会経済活動が活発化し、人の移動や会食機会の増加などを要因とする、各地における様々なクラスターの発生や、家庭内での感染者が増加しております。

市民の皆さまには、再度、3密を避け、マスクの着用、手洗い、うがいの励行を徹底していただき、これまでの予防行動にも増して、感染防止対策へのご協力を切にお願い申し上げます。

今冬は、新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行が懸念されております。本市では、独自対策としまして、医療機関と連携協力する中で、11月中には、市内の全世帯向けに「発熱した時の相談体制」に関する文書を発送し、周知に努めてまいりました。

また、季節性インフルエンザの予防接種につきまして、感染リスクの高い妊婦及び生後6箇月から18歳になる子どもの接種費用を、1回2,500円を上限に助成するとともに、65歳以上の方につきましても、自己負担金1,000円にて接種が可能となる助成を実施しております。

本年を振り返りますと、1月に新型コロナウイルスの国内初感染が確認されて以降、全国的な感染拡大により、未知のウイルスへの対応を余儀なくされ、感染防止対策に全力を傾注する1年となりました。本市といたしましても、支援策としまして総額28億円余りを執行しております。今後も、市民の生命と財産を守り、安全、安心を確保することが、地方自治体の最大の責務だと強く認識し、スピード感を持ち、コロナ禍における状況に鋭意対応してまいります。

山梨県と静岡県、両県の特産物による消費喚起を目的としてスタートしました「バイ・ふじのくに」交流事業では、5月から10月にかけて、静岡市や沼津市におきまして、本市の特産果実の即売会による観光プロモーションを積極的に実施してまいりました。

来夏に予定される中部横断自動車道の静岡方面への全線開通も見据える中で、来年度以降もこの交流事業を継続し、「海と山」の交流事業を更に発展させ、互いの観光、経済、教育、文化などの多種多様な交流を一層推進してまいりたいと考えております。

続きまして、就任以来、注力してまいりました公約の成果と、今後の取り組みにつきまして、ご説明申し上げます。

1点目といたしまして、「子育て支援のさらなる推進」についてであります。

保育料につきましては、今年度から多子世帯における第2子以降の無償化を実施しております。3歳未満児の保育料無償化につきましては、財政面や施設改修、保育士の確保など、様々な課題がありますので、引き続き検証を継続してまいります。

将来に向けた教育環境の整備につきましては、GIGAスクール構想をもとに、計画を前倒して、本年度中に児童生徒全員に端末を配備するための準備を進めております。

八田児童クラブにつきましては、新しく小学校敷地内に移転、整備することにより、交通事故などから児童を守り、安全を確保するため、本年度内に実施設計を完了し、来年度には、工事の着工を予定しております。

2点目としまして、「健康・長寿のまちづくり」についてであります。

住民同士が地域のつながりや相互に支えあうことの必要性和、それぞれの地域の課題解決に向け、活動していくことが、いつまでも安全で、安心して暮らすことのできる地域づくりに繋がることとなります。この取り組みを、より強く推進していくため地域支えあい協議体の活動につきまして、今後とも積極的に支援してまいりたいと考えております。

健康リーグの充実拡大につきましては、令和元年度から実施している健康わくわくウォークが大変好評を得ており、今回も約1千名の方が、それぞれの目標を設定し、楽しみながらウォーキングに取り組まれております。特に、今年は、外出自粛等により、運動不足やストレスなどによる二次的な健康被害が心配されておりますので、予防の観点からも非常に効果的な事業となっております。

3点目としまして、「ユネスコエコパーク事業」の推進についてであります。

移行地域での歴史ある伝統文化、地域に根ざした文化の継承と振興を図る「ふるさと〇〇博物館」事業の取り組みにつきましては、昨年度、リニューアルオープンしたふるさと文化伝承館を拠点と位置付け、重要文化財「鋳物師屋遺跡出土品」の展示や、国指定史跡「御勅使川旧堤防」のガイダンス施設として、また、地域の歴史や先人の知恵に触れる事のできる「ふるさと教育」の場として、更には、本市の歴史や文化を発信するための重要拠点として、大いに活用しているところであります。

エコパ伊奈ヶ湖施設整備事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施時期や施設内容等につきまして、改めて検討を重ねているところであります。エコパ伊奈ヶ湖は、緩衝地域の拠点施設として、自然資源を活かした、オリジナリティ溢れるプログラムの提供を積極的に推進してまいります。

過疎自立促進計画の策定につきましては、過疎地域自立促進特別措置法が、適用期限を今年度末に迎えることから、新たな法律の成立が見込まれており、これに伴い、市の過疎地域自立促進計画の策定が改めて必要となります。この計画は、令和3年9月が策定期限となっておりますので、年明けから策定準備に入り、芦安地域の関係者と十分な協議を進めてまいります。

4点目としまして、「豊かで活力あるまちづくり」についてであります。

中部横断自動車道やリニア中央新幹線の開通効果を活かした雇用の確保と、移住、定住人口の拡大の可能性が大きくなる中、着実に地域の活性化を進めていくためにシティプロモーション事業が非常に重要となってまいります。市民の皆さまのシビックプライドの醸成に向けた取り組みを進める中で、まちの魅力を市内外に発信し、観光客、移住定住者の拡大に結び付けていくため、現在、シティプロモーション戦略の策定を進めており、来年度から戦略に基づき、事業を展開してまいります。

土地利用につきましては、本市が更なる発展を遂げるためには、秩序ある効果的な土地利用計画の策定が必要であり、現在、関係各課による課題抽出や先進地における有効な取り組み事例などの視察により、ワーキング形式で協議を重ねているところであります。

5点目としまして、「行財政改革のさらなる推進」についてであります。

将来負担の軽減を図り、総合計画に掲げる将来像「自然と文化が調和した幸せ創造都市 南アルプス市」を実現するため、第3次行政改革大綱に基づき、行財政改革に全力で取り組んでいるところであります。

財政の健全性を示す全国統一の指標「健全化判断比率」につきましては、県内13市の中でも最も良好な数値を維持しております。しかしながら、人口減少と少子高齢化による生産年齢層の減少に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、来年度の歳入は市税や地方交付税の減収が見込まれます。歳出につきましては、高齢化社会を迎え、行政ニーズや対応策が多様化し、社会保障費の増加が見込まれます。

こうした厳しい財政状況の中ではありますが、社会経済情勢の変化に的確に対応しながら、真に必要な事業の執行に十分な経費を確保することを基本とし、来年度の当初予算編成を実施してまいりたいと考えております。

続きまして、本定例会に提出いたしました案件につきまして、ご説明申し上げます。

提出いたしました案件は、条例案6件、予算案8件、指定管理者に関する案8件、市道路線に関する案2件、同意案1件、諮問案8件、合わせて33件であります。

詳細につきましては、総務部長、総合政策部長から説明いたします。